

令和2年度 附属学校研究支援・特色化にかかわる事業実施報告書

事業の名称	豊かな心をはぐくみ生き方の自覚を促す12年道德教育の推進 ～思いやりの心を重視した取組の充実～
事業実施代表者名	北海道教育大学附属旭川小学校副校長 齊藤 誠
実施附属学校名	北海道教育大学附属旭川小学校
事業内容 (実施内容について、 1,000字程度で記述)	<p>これまで旭川地区で進めてきた幼小中の「12年道德」を踏まえ、今年度から全面実施となった学習指導要領の理念を実現する道德教育の実現に向けた取組の充実を図る。</p> <p>とりわけ、道德性調査（HUMANⅢ新道德性検査）を活用して児童の道德性を把握するとともに、多様な価値を認め合うなどの思いやりの心の育成を重視した取組を推進するため、映像配信システムを活用して遠隔授業を行うなど、幼稚園で育成された道德性を伸ばし、中学校へとつなぐための実践の改善・充実を図っている。</p> <p>1 12年教育</p> <p>幼稚園・小学校・中学校の12年間を見通し、各学校種間や家庭・地域との連携を図った道德教育の充実も目指しており、子供たちの発達の段階を踏まえた道德性、特に「思いやり」などの重点領域を設定し、幼稚園・小学校・中学校の12年間を見通した思いやりの心の育成を図るに当たり、取組の成果を継続的に把握する評価材料として、道德性検査を活用している。</p> <p>2 教育実践研究</p> <p>道德教育の実践及び研究においては、一昨年度から継続的に実施している道德性検査を活用・反映し、改善を重ねている。また、コロナ禍の状況を踏まえ、参加者の地域、人数を制限した上で、道德科の授業を公開し、成果の普及に努めている。</p> <p>3 教育活動全体で実施する道德教育の改善・充実</p> <p>道德性検査の結果から各学年・学級の児童の課題を把握し、道德科をはじめとする全教科・領域等で実施している道德教育全体の改善・充実に生かすことで、児童の道德性を高めている。また、多様な考えに触れ、考えのよさを認め合う学習に適した算数科で遠隔授業を実施するなど、児童が多様な価値に触れる機会を設定し、教育活動全体として道德性をはぐくむことができるよう工夫している。</p>

<p>成果と課題 (活動の成果と課題について、500字程度で記述)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 上記1～3について、教育活動全体をととした道徳教育の改善・充実を進めたことにより、道徳性検査において、全ての学級で、「他者へ思いやりをもって接し、親切にする」という項目において望ましい回答が全国平均以上であった。 ○ 幌加内町立幌加内小学校と映像配信システムでつなぎ、遠隔授業を実施したことで、自分や友達とは異なる考え方をする児童と学び合う経験をさせることができ、自分の意見を主張するだけでなく、相手の理解や受け止め方を考えながら説明したり、相手の考えのよさを見つけようとしたりするなど、思いやりをもって学び合う姿が見られた。 ● 多様な価値を認め、協働していくための土台となる道徳性ややり抜く力等を伸ばし、探求する力を高めていくため、これまで続けてきた幼小中の「12年道徳」を踏まえた上で、今後求められるグローバル化・ダイバーシティ社会への対応を踏まえた取組を拡充していくことが必要である。
<p>今後の発展性 (残された課題の解決方策及び取組の方向性について、500字程度で記述)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中学校卒業までに身に付けさせたい資質・能力の育成を目指し、道徳教育・各教科等教育における指導方法の工夫・改善及びその取組の評価、児童による継続的な自己評価の仕組み等を整備し、12年間の継続性のある取組を行うことができるよう、カリキュラム・マネジメントを推進する。 ○ iPadやChromeベースの端末、大画面のミーティングボード等を組み合わせ、個別の学びと協働的な学びを往還しながら学習することができるようにするなど、多様な価値を認めながら探求する力等を効果的に高めていくための授業改善を推進する。
<p>事業の公表状況 (事業をHPで公開した場合、又は新聞等に掲載された場合、当該媒体名、掲載日等を記入)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 北海道通信・日刊教育版 第11847号(令和2年12月25日発行) 「幌加内小と附属旭川小 遠隔合同授業」

(注) 当該事業に係る写真等の参考となる資料がある場合は、この事業報告書に添付すること。